著作権保護コンテンツ

特集 幼稚園や小学校、児童館で

おはなし会を開こう！

小学校の朝読書などをきっかけに、おはなし会をやってみたいという人が増えているようです。どんな準備をすればいいの？子どもたちとはどうかかわるべき？　本の選び方は？知っておきたい、おはなし会の基礎知識をお教えします。

イラスト／梅津 裕子

お話
児玉ひろ美 こだま・ひろみ
JPIC 読書アドバイザーとして、小・中学校を中心に読みきかせやブックトークを実施。公共図書館非常勤司書になったのを機に、ボランティア養成講座など、子どもにかかわる大人への支援を通じ、読書環境を整える活動に従事している。

おはなし会をやってみようと思ったら

朝の10分間、好きな本を読む。それだけのことで、生徒たちの心が穏やかになり、いじめがなくなり、それに比例するように学力も向上した……。

朝の読書運動は、1988年に千葉県の高校で2人の教師によって提唱されるようになり、文部科学省が「21世紀教育新生プラン」と銘打ち、あいさつのできる子、正しい姿勢とあわせて、3本の柱のひとつとして取り上げて以降、全国的に大きな広がりを見せています。

小・中・高等学校において、ホームルームや授業が始まる前に本を読む時間を設ける朝の読書は、そもそも70年代から個々の学校や担任の先生単位で行われてきました。

小・中・高の半数以上が朝の読書運動を取り入れているといわれる現在は、地域の読書ボランティアの人たちや保護者などに呼びかけて、担任の先生ではない大人が、朝読書の時間に各クラスで子どもたちに読みきかせをする学校も増えています。

学校から読みきかせボランティアをやってほしいと声をかけられたり、あるいは朝の時間に限らず、地域の児童館や図書館、幼稚園や保育園などで自主的におはなし会を始めてみたいと思ったら、どんな準備をすればいいのでしょうか。

ひとりで始めてもいいけれど、できれば仲間と一緒に

自分の考え方とペースで自由にでき、仲間の人間関係に配慮しなくていいことを考えると、いちばん簡単なのはひとりでの活動です。とはいっても、おはなし会は子どもたちとの約束であり、学校という教育現場の時間を使って活動するわけですから、簡単にキャンセルはできません。何かのアクシデントが起きて足を運べないというときに、仲間がいてくれると大いに助かります。

また、単独での活動はひとりよがりにもなりがちです。そんなときに仲間がいれば別の視点で物事を考えたり、気づきを与えてくれることもあるはず。切磋琢磨しあえる意味でも、仲間がいることは励みにもなります。

ただ、仲のいい2人組だと、どうしてもトーンが似てきます。バランスのいい人数の目安は、3～5人くらい。この人数なら電話やメールでの連絡もとりやすく、チームとしても活動しやすいでしょう。

それ以上の人数になる場合は、幼稚園や学校、児童館の方と連絡をとる代表者をひとり決め、まとまりのあるグループとして活動することが望ましいですね。

では、さっそくおはなし会を開く準備をしましょう。

特集

被災地に子どもの本ができること

震災から5カ月以上が経ち、子どもの本にかかわる私たちはこれからどのような支援ができるでしょうか。前号に引き続き、「子どもたちへ〈あしたの本〉プロジェクト」の様子をレポートします。また、日本ペンクラブ会長で作家の浅田次郎さんから「本の力」についてメッセージをお届け。さらには、被災地に向けて読書支援活動を行う団体をご紹介します。

「子どもたちへ〈あしたの本〉プロジェクト」始動!!

6月17日、「子どもたちへ〈あしたの本〉プロジェクト」の呼びかけ4団体が、記者会見を行った。日本ペンクラブの浅田次郎新会長、日本国際児童図書評議会の村山隆雄新会長も出席しての会見は、会場満席の70名を超えるマスコミ関係者であふれ返った。

4団体それぞれの代表が伝えたかったことは、言葉は違えど「つらい環境にある子どもたちに本が寄り添うことで、励まし支えることができる。周囲の大人たちが本を手渡し、一緒に読んだり、読んであげたりすることを大切にしてほしい」ということ。

東日本大震災後、全国から「被災地の子どもたちに本を贈りたい」という大きな流れができたことは、特筆に値すると思います。阪神・淡路大震災や中越沖地震ではなかった動きです。IT社会、読書離れなどと言われつつも「本の力」を信じて行動していただいたみなさまに、心より感謝申し上げます。

さて、私どもの「〈あしたの本〉プロジェクト」も本のつくり手や読書ボランティアのご協力で、具体的に動き出すことができました。

ひとつは、前号の「特集」や「JPICだより」でもお知らせいたしました「絵本作家・児童文学作家による直筆画・メッセージ展示会&オークション」です。国内外130名もの作家から250点を超える作品を提供いただきました。多くの地で展示会をたくさんの方々にご覧いただき、入札もしていただけました。オークションは、8月末までJBBYのホームページ(http://www.jbby.org/)でも受け付けています。ご希望の方はお急ぎあれ! あなたの大好きなあの作家さんの直筆画が手に入るうえ、その収益金が「被災地の子どもの読書活動支援費に充当される」なんて、美しいシステムではありませんか!!

上／京都の「イオンモールKYOTO」で開催した直筆画展では255点を展示。下／マスコミ関係者でにぎわう記者会見場。

ふたつめ。被災地での読みきかせ活動支援。医療界と協力した「メンタルヘルスケア〝心の絆〟プロジェクト」で、お医者さんの「メンタルヘルスケア講演」と読書ボランティアによる「おはなし会」をセットで巡回。7月下旬から9月上旬にかけて60カ所程度の施設で実施予定。6月中旬から7月中旬には、読書ボランティアのみなさんを対象に「被災地でのボランティア活動における留意点」などをプログラムに含めた〝集い〟を3回開催しました。また、「各読書ボランティアの自主的な活動の

宮城県南三陸町の公民館で行った「"心の絆"プロジェクト」。メンタルヘルスケアのお話のあとは、おはなし会を楽しんでもらいます。

著作権保護コンテンツ

移動図書館車の中にも本がぎっしり。子どもたちが本を手にとって楽しんでもらえるようになっています。JBBYの村山会長も、自ら車内本棚への本詰め作業に活躍！

なかで、図書や本棚を必要としている施設があれば、東京からお送りします」という態勢も整え、「東京では把握できない、地元読書ボランティアとの協力関係によるこまやかな状況把握、サポート対応」ができる運営を図っています。弊誌読者からの情報提供やサポート要請もお待ちしております。

実際に活動されているみなさまからは、「それぞれの被災者や子どもたちによって、置かれている環境は違い、当然、優先順位も違います。『まだまだ本なんて』という状況の方もたくさんいらっしゃいますが、本を読んであげると、子どもたちは本当に喜んでくれます。周囲のお友だちや大人とゆったりとした時間を共有できることで、安心するのでしょうね」との声も多数。これが、本、ものがたりの力ですね。

“集い”では、被災地でのおはなし会の留意点や、子どもの本にかかわる作家が「本の大切さ」について話します。

みっつめ。臨床発達心理士でJBBY前理事の撹上（かくあげ）久子さんのご努力で実現した「だいじょうぶだよセット」の配布。一つ一つニードを確認し点字絵本や布絵本、音の出るおもちゃなどをセットしています。障がいをもつ子どもたちにも本を届けたいとの気持ちがあふれる、素晴らしい贈りものです。医療施設から小規模な子どもの施設まで、要請に応えてお送りしています。

「だいじょうぶだよセット」布絵本・点字絵本・拡大絵本など、バリアフリー絵本。子どもとコミュニケーションをとりながら読める絵本など、ニードに応じるセット。

そして、よっつめ。移動図書館車の運行です。幸いにも、社団法人日本外交協会とNPO法人サベシジャパンのご厚意により、〝1台目〟の図書館車を得ることができました（無償貸与）。車体はきれいに塗りなおされ、子どもたちの大好きな絵本キャラクターもペタペタ貼って出発進行！2000冊もの図書を積んで、各地を巡ります。当プロジェクトメンバーもおはなし会や人形劇で参加したいとの思いがあったり、出版社からの寄贈図書を子どもたちにプレゼントする計画もあったりと、単なる「移動図書館車の運行」という枠には収まりきらない活動となりそうです。

また、この原稿執筆時には決定していませんが、「移動図書館車の寄贈」「仮設図書館の設置支援」「寄付・協賛」等々のお申し出をいただいており、最終調整をしているところです。本当にありがたいことで、御礼申し上げます（どうか、実現しますようにッ！）。

募金窓口

三菱東京ＵＦＪ銀行　神楽坂支店
（普通）0059827
口座名義：〈あしたの本〉プロジェクト

著作権保護コンテンツ

この人にあれもこれも

こんにちは！絵本作家さん

『ジェイクと海のなかまたち』などでおなじみ！

葉 祥明（ようしょうめい）さん

自分らしく生きていこうよ

数多くの絵本作品やキャラクターグッズを生み出しつづける葉祥明さん。淡くやわらかな色使いとは裏腹に、作品を貫く世界観や強いメッセージを発する作風の秘密、そして人生の考え方のヒントについて語ってもらいました。

撮影／石川 正勝　取材・文／菅原 千賀子

勤勉で視野の広い両親から受け継いだ精神

小さいころのことを振り返ってみると、今とまったく同じ。毎日、野原や空を眺めているのが好きでした。「あっ、小鳥が飛んでいる」「虫もいる！」と、自然の中に存在する生き物や草花を、ひねもす、じっと見ていました。僕は生まれてからずっと、世界と命に対する驚異の感覚を大切に持ちつづけているのです。

故郷は熊本。中国料理のレストランを営む父と母のもと、7人兄弟の6番目として生まれました。12歳年上の長男は勉強家で、世の中に起こっているさまざまなことを、妹や弟の僕たちによく語ってくれたのです。父はその横でニコニコしながら聞いていましたね。

家族のほかに、レストランの従業員たちも大勢いて、多様な生き方・考え方の人たちに囲まれた環境で僕は育ちました。

この20年、僕は当時の兄のように、さまざまな話をしていますが、ものごとを知った人は、みなにそれを伝える責任があると思うから。

熊本の人々に愛されるレストランをつくり上げた父と母。両親が持っていた「他者を喜ばせる精神」は、作品においても語ることにおいても、僕の中にもしっかり受け継がれていると感じています。

著作権保護コンテンツ

こども冨貴堂が選ぶ 贈る絵本
感じて地球 ～北から～

『風の又三郎』
作／宮澤 賢治
画／小林 敏也
2,100円（パロル舎）
“どっどどどどうど　どどうど　どどう” 9月1日のこの風の音で始まる物語が、私は子どものときから大好きでした。少年たちがサイカチの木の上から“あんまり川をにごすなよ”と叫ぶところも大好き。子どもらの元気な声が物語の中から響いてきます。

『クマよ』
文・写真／星野 道夫
1,365円（福音館書店）
星野道夫の遺書ともいえる絵本。遠い子どもの日に感じた、共にこの地球の上で呼吸している“おまえ”、クマよ。この星が私たち人間だけのものではないことを“おまえ”の存在を通して、強く、深く感じさせてくれます。

『秋は林をぬけて』
作・絵／小泉 るみ子
1,365円（ポプラ社）
少女のまなざしがとらえた秋の表情。落葉松林の金色じゅうたん、宝石のような野葡萄。そして父母が育てるりんごやぶどう。家族総出で働く稲刈りやはさかけ※。北国の秋の空気と匂いがいっぱいこめられています。
※刈り取った稲を束ねて天日に干すこと。

『コッコさんのかかし』
作／片山 健
1,155円（福音館書店）
田んぼにはかかしがよく似合います。少し大きくなったコッコさんがお父さんとお兄ちゃんと一緒につくったかかし。稲穂の海に乗り出すシルバー船長のようです。大地の恵みをみんなで祈り共に喜びたいですね。

『りんごのえほん』
作／ヨレル.K.ネースルンド
絵／クリスティーナ・ディーグマン
訳／たけい のりこ
1,260円（偕成社）
りんごって素敵です。まあるいりんごの実は私たちの住んでいる地球の形をしています。ピンクのつぼみも、白い花も清楚で可憐です。ナマで食べてもよし、煮ても焼いてもまたよし。りんごは北国の果実の女王さまです。

友禅菊の花が野辺を薄紫色に染めるころ、北国には秋が訪れます。
ヒトも動物も鳥たちも、冬に備えて山や野原に、田や畑に秋の実りを収穫し大地の恵みに感謝する季節です。
アイヌのおばあさんが、秋になるとご馳走してくれたのは朴（ほお）の実のお茶でした。朱色に熟れて裂開した大きな朴の実を丸ごとやかんに入れてぐつぐつ煮ます。そのお茶は、胃の調子を整え体を温めてくれるのです。
りんごの甘酸っぱい香りを味わうのも秋の楽しみです。りんご園に出掛けていって、紅玉、ゴールデンデリシャス、スターキングなど名前も懐かしいりんごをもいだり買ったりします。北国では、りんごをモミ殻の中に埋めて凍らないように保存し、冬の間に食べるのです。昔の人の知恵ですよね。
アツアツにゆでたホクホクのじゃがいもやかぼちゃ。食欲の秋を満喫し、ヒトも動物たちのように厳しい冬への備えをしましょう。

こども冨貴堂
〒070-0037 北海道旭川市7条8丁目買物公園内
TEL 0166-25-3169 ／ FAX 0166-25-3171
年末年始休
http://www.fukido.co.jp/kodomofukido.html

今回の選書は
こども冨貴堂の
福田洋子さん

著作権保護コンテンツ

こどもの広場が選ぶ 贈る絵本

感じて地球 ～南から～

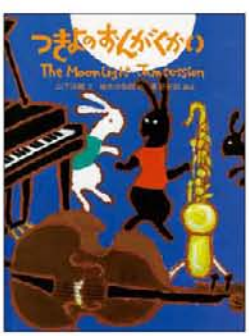
児童書専門店の方が、贈り物にぴったりな絵本をテーマに沿ってチョイスします。前号に引き続き、「こども冨貴堂」と「こどもの広場」による選書です。自然や私たちの暮らしの中に訪れる「秋」を感じてみましょう。

撮影／矢作 孝志

『まつり』
作／いせ ひでこ
1,680円（講談社）
太鼓のリズミカルな音。神輿の華やかな飾り。力強いかけ声。たくさんの人のざわめき。そして暗闇に浮かぶ明かり。誰でも心が浮き浮きします。日本の祭りにやって来たフランスのお客さまにも、祭りが土地の人と共にあるその深い絆がわかってもらえるでしょうか。

『ひろってうれしい　知ってたのしい　どんぐりノート』
作／いわさ ゆうこ、大滝 玲子
1,365円（文化出版局）
子どもの友だち、どんぐり。秋の森で一番人気です。でも、丸いのや長いのなどハカマの形もいろいろです。みんなまとめて「どんぐり」ではお気の毒。違いがわかればもっと楽しい。遊び方や食べ方まで秋満載です。クリだって仲間さ。

『フリズル先生のマジック・スクールバス　台風にのる』
文／ジョアンナ・コール　絵／ブルース・ディーギン
訳／藤田 千枝
1,575円（岩波書店）
「調べ学習」ってなかなか難しいですが、フリズル先生の学級では、先生運転のバスに乗って現場で体験学習です。気象台で地球の大気について勉強をするはずだったのに、バスは“台風飼育場”に。読んでるうちに大気と台風のこと、うんわかった!!



『つきよのおんがくかい』
文／山下 洋輔
絵／柚木 沙弥郎
構成／秦 好史郎
1,260円（福音館書店）
満月の日、こうちゃんが山のてっぺんで月を見ようと登ってみると、ピアノを担いだクマやベースを持ったウマたちがやってきて、ぶんぶんぶん、シャンシャカ、キャンキャン、シャバドビ演奏を始めます。思わずこうちゃんも参加して、ジャズが絵本に。

『くんちゃんはおおいそがし』
作／ドロシー・マリノ　訳／まさき るりこ
998円（ペンギン社）
遊ぶおもちゃなんか何もなくても、誰も遊び相手になってくれなくても、子どもたちは時間と自然があれば、いつかおもしろいことを思いつくものです。暇を持て余していた、子グマのくんちゃんは秋の戸外で次々遊びを発見します。豊かな子ども時間です。

地球の上に住んでる私たち。地震や津波や台風といった自然の脅威の前で立ちすくんでしまうこともあります。でも、調べたり、考えたり、実験したりして賢く対策をとることも可能です。鎮守の森を守り続けている人々はそこに生き続けている大きな樹や自然の力を知っているのです。祭りはそれを忘れないためです。子ども時代、林の中で夢中になってどんぐりを袋いっぱい拾って友だちに自慢したことを思い出します。マテバシイの特別大きなのがあればうんとうれしかった。そのときはなんの役に立つかわからないけど、ただ、落ち葉の匂いや小さな虫や何かを集めることがたのしい時代。ちょっと大人の手助けがあれば、きれいな満月の日がウキウキするような時間にもなるし、大風の吹く台風の日も怖いだけではなくすごい体験をすることができるかもしれません。今、生きていることは、豊かな自然と、子ども時代の体験が支えてくれているってことですね。

こどもの広場
〒750-0001 山口県下関市幸町7-13
TEL & FAX 083-232-7956
定休日　月曜日
http://www.kodomonohiroba.co.jp

今回の選書は
こどもの広場の
横山眞佐子さん

著作権保護コンテンツ

ぜーんぶプレゼント 新刊100!!

もう読んだ？

2011年3月～5月に発売された新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。親子ですてきな時間を過ごしてください。プレゼント応募はアンケート用紙、またはウェブから。

※出版社五十音順

マークは乳幼児から、

は中・高校生も楽しめる本です。

『ふしぎなまちのかおさがし』

サムくんは、おじさんからイヌのダックとカメラを借りて出かけました。ダックは「まちのかお」を探すのが得意。さぁ、一緒に「まちのかおさがし」をしましょう。あそこにも、ここにも、たくさんの「かお」がありますよ。見つけた場所、わかるかな。

写真・文／阪東 勲
1,365円（岩崎書店）

『ふたつのおうち』

あんなに仲のよかったパパとママが別れて住むようになり、ニーナの生活もすっかり変わってしまいました。パパの家とママの家を行ったり来たりして、両方の家で暮らすようになったからです。けれどパパとママがニーナへ寄せる愛情は変わりません。

作／マリアン・デ・スメット
絵／ネインケ・タルスマ
訳／久保谷 洋
1,050円
（朝日学生新聞社）

『きたかぜとたいよう』

北風と太陽のどちらが旅人の服を脱がすことができるか、強さを競うおはなしはイソップ童話の中でおなじみです。北風も太陽も、力強く描かれています。旅人は、いつ服を脱いだでしょう。力ずくだけでは、解決しないことがありますね。

文／蜂飼 耳
絵／山福 朱実
1,260円（岩崎書店）

『もしもであはは』

頭の中が「もしも」でいっぱいになって、思わずぷぅ！と笑っちゃいます。子どもたちの想像力をふくらませ刺激する、おもしろくて楽しい絵本。もしもアリがこ～んなに大きかったら。アハハハハと声が聞こえてきそうです。

文／そうま こうへい
絵／あさぬま とおる
1,260円
（あすなろ書房）

『エイミーとルイス』

エイミーとルイスはいつも一緒。ママに教えてもらった特別な言葉でお互いを呼び合います。けれどある日、エイミーは遠くへ引っ越してしまいました。お互いを思う気持ちがひしひしと伝わります。エイミーを呼ぶルイスの声は、エイミーに届くでしょうか。

文／リビー・グリーソン
絵／フレヤ・
　　ブラックウッド
訳／角田 光代
1,470円（岩崎書店）

『おれたちはパンダじゃない』

なんでパンダばっかり人気があるんだろう……。ブツブツ文句を言いながらクマはハッと、気がつきました。「パンダに変装さえすれば、人気者になれるかも!?」。ペタペタペンキで変装したクマ。果たして思惑どおりになるのでしょうか？

作／サトシン
絵／すがわら けいこ
1,365円（アリス館）

『とけいのくにのじゅうじゅうタイム』

10時10分になったとき、「じゅう じゅう、じゅう じゅう。10時10分は焼き肉タイムです」と言いながら小人が現れます。ところが、焼き肉はすぐに消えてしまうのです。怒ったたけしは時計を壊してしまいました。数字たちは元に戻るでしょうか。

文／垣内 磯子
絵／早川 純子
1,260円（あかね書房）

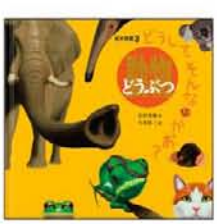
『パパのしごとはわるものです』

学校の宿題「おとうさんの仕事」を調べるため、僕は、こっそりパパの車に乗り込んだ。筋肉モリモリのパパは、何をしているのか？　なんと、体育館の中で、プロレスの悪役をしていたんだ。どうして正義の味方じゃないんだろう？

作／板橋 雅弘
絵／吉田 尚令
1,365円（岩崎書店）

『どうしてそんなかお？ 動物』

ゾウの鼻はどうしてあんなに長いのでしょう？　それは高い木の葉っぱを食べるためなのです。ではラクダのまつ毛が長いのは？　ネコのひげが立派なのは？　コアラの鼻が大きいのは？　13種類の動物の、顔にまつわる秘密が解き明かされます。



作／有沢 重雄
絵／今井 桂三
1,470円（アリス館）

『おもいでをなくしたおばあちゃん』

ペトラはママと一緒に、高齢者施設にいるおばあちゃんを訪ねました。おばあちゃんは、娘であるママもペトラのことも忘れてしまったようです。けれど、ペトラが口ずさんだ歌を聴くと、表情が変わりました。何かを思い出したのでしょうか？

作／ジャーク・ドレーセン
絵／アンヌ・
　　ベスターダイン
訳／久保谷 洋
1,050円
（朝日学生新聞社）

著作権保護コンテンツ

『10びきのペンギンくん』

10匹のペンギンくんたちが、ボウリングごっこをしたり、スケート遊びをするたびに1匹ずついなくなり、とうとう誰もいなくなっちゃった！……かな？　縦に広げることで、舞台のような場面が広がり、数と仕掛けが楽しめます。

文／ジャン＝リュック・フロマンタル
絵／ジョエル・ジョリヴェ
訳／土屋 和之
1,785円
（学研教育出版）

『わすれたくない海のこと』

沖縄県の大浦湾で、たくさんの生き物が暮らす姿をとらえた写真絵本です。美しいサンゴ礁の海は、山や川が水でつながってできていることを伝える写真の数々。自然を破壊することは、つながっている命を失うことなのだと、写真は雄弁に伝えてくれます。

作／中村 卓哉
1,575円（偕成社）

『空城の計』

中国三国時代の軍師、諸葛孔明は戦いの途中、休息をとっていた城で敵の急襲にあいます。前線を託した2万5000の精兵も壊滅し、城は空っぽ同然。15万の大軍迫る絶体絶命の危機を、孔明はどうやって切り抜けたのでしょうか。三国志の名場面を美しい絵で再現。

文／唐 亜明
絵／于 大武
1,680円
（岩波書店）

『ケーキちゃん』

ショートケーキのケーキちゃんは、ママにクリームといちごでおめかししてもらってお散歩です。みんながケーキちゃんの飾りにうっとりするので、分けてあげることにしました。でも飾りを取ったら、ただのスポンジではありませんか！

作・絵／さとう めぐみ
1,155円（教育画劇）

『なぞなぞ おめでとう』

迫力満点の表紙にまず目がクギづけになるでしょう。ページをめくると四季折々のスズキコージワールドに吸い込まれていきそう。カラフルな絵になぞなぞの答えが隠されているユニークで楽しい絵本です。みんな頭をひねってよ～く考えてね。

なぞなぞ／石津 ちひろ
絵／スズキ コージ
1,050円（偕成社）

『妖怪横丁』

お豆腐の買い物を頼まれた男の子が、妖怪横丁の商店街に入りました。それぞれの妖怪に合ったお店が並んでいます。一つ目小僧が、男の子を見張ってついていくようです。絵本のどこに描かれているのか、探してみてください。

作／広瀬 克也
1,260円（絵本館）

『ちびころおにぎり なかみはなあに』

炊きたてごはんにお塩をふって、塩しゃけ、たらこ、梅干しと中身はいろいろです。ところが、小さなおにぎりちびころちゃんだけは中身がありません。どうして？　みんなでちびころちゃんの中身を探しに、冷蔵庫の中を探検します。見つかったかな？

作・絵／おおい じゅんこ
1,155円（教育画劇）

『へんたこさん せんちょうになる』

船長になって世界の海を旅してみたーい！　それが、へんたこさんの誰にも言えない大きな夢でした。かないそうもない夢に向かって、へんたこさんの挑戦が始まります。タコのへんたこさん、見事に夢をかなえることができるでしょうか？　応援してください。

作／いとう ひろし
1,260円（偕成社）

『ものしり ひいおばあちゃん』

95歳も離れている、ゆうくんとひいおばあちゃん。ゆうくんのお母さんが、おばあちゃんって呼ぶ、なんでも知っているひいおばあちゃんに、草笛や草ずもう、笹舟など、自然の中でいろいろなことを教えてもらいます。懐かしい遊びや昔の人の知恵がつまっています。

作／朝川 照雄
絵／よこみち けいこ
1,365円（絵本塾出版）

『はりもぐらおじさん』

はりもぐらおじさんは、洋服の仕立て屋さんです。森に住むみんなが年に一度のお楽しみ会に着ていく洋服を内緒で注文にやってきます。チョキチョキ、チクチク、タタタタタ……。さぁ、どんなおしゃれな洋服ができあがったのでしょう。

作・絵／たちもと みちこ
1,260円（教育画劇）

『みずたまり』

タクがブランコの下にできた水たまりに気づいたのは、雨上がりのことでした。目をこらして見ていると、津波で家族をなくしたよその国の女の子の顔が現れてきました。内気な男の子が、人を思いやって成長する姿が描かれています。

作／森山 京
絵／松成 真理子
1,050円（偕成社）

『ともだちやもんな、ぼくら』

僕らは仲よし3人組。夏休み、大きなカブトムシを見つけて、3人で捕まえていると、カミナリじいさんがやってきた。僕たちは逃げ出したけど、ヒデトシだけ転んで逃げ遅れてしまった。どないしよ……。2人はヒデトシを助けに行けるでしょうか？

作／くすのき しげのり
絵／福田 岩緒
1,000円（えほんの杜）